

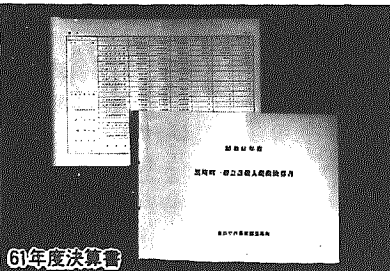
# 監査意見から

監査意見は財政状態を下記のように述べています。

国の行財政改革により財政抑制策が強化され、地方交付税をはじめとする国・県支出金の削減など今後も町財政の大幅な伸び率は期待できないのが現状であり、今後の財政運営には十分な留意が必要である。(中略)

昭和61年度一般会計の決算をみると、国・県支出金の交付割合が減少していく傾向である反面、公債費や人件費などの義務的経費が増加していく現況である。町税その他の収入の大きな伸びが期待できない現状であることから、本町の財政は依然として厳しいものがある。

将来、総合庁舎の建設をはじめ、学校教育施設の整備、町道及び都市下水路、農村総合整備モデル事業など複雑多岐にわたる難問が山積みしている。したがって今後の予算の編成及び行財政の執行に当たっては十分検討を重ね重点的な施策に基づいて実施することが適切であると考えます。その他財政運営に当たっては、行政全般にわたる事務の合理化と経費の節減等計画的な運営により、健全財政の確保に努力すると同時に、今後の行政需要の拡大に対処することを望みます。



61年度決算書

長期借入金も増えればそれだけ財政を厳しくします。61年度末で32億419万円、町民一人当たり約14万円の借金を背負っていることになり、将来にわたって元金と利子を返していかなければなりません。黒中増築の場合25年かかります。

## 一人当たり14万円借金

黒中増築の財政は、町税が増えているものの、余裕がほとんどないのです。町がやるべき事業はたくさんありますが、実施のために合理的な財政運営が求められています。

しかし、町税などの一般財源だけでは町を賄いきれません。たとえば、黒中校舎の増築にかかった費用のうち、町の持ち出し(一般財源)は2122万円にすぎず、残りは町債3490万円、国庫支出金4414万円です。

自治体の財政力の強さを測るものとして「財政力指数」があります。これは、町税など自治体の収入で標準的な必要経費をどこまで賄えるかを示すもので、高いほど税収入があつて、財政力があります。

黒中増築は0.620で前年より下がりました。県平均は0.412、町村平均0.366、市平均0.625。隣の市町では白根市0.615、吉田町0.764、亀田町0.627、新潟市0.921。

以上ことから、黒中増築は町税などの点で比較的恵まれているといえます。

ただ、道路や建物などは将来の町民も恩恵を受けるわけですから、町債は限度を超えなければ活用してよいわけです。その限度が「借債制限比率」で、3年平均で20%を超すと借債制限団体となります。

黒中増築は13.9%(県内63位)でここ数年横ばい状態です。

公債費比率は改善へ

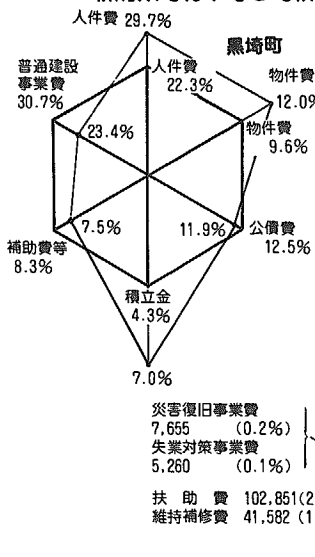
「公債費比率」は公債費(町債の返済)の標準財政規模(町税等+普通交付税)に対する割合で、小さいほど財政に余裕があることとなります。

15%を超すと財政硬直化の黄信号といわれます。黒中増築は58年度に15%を突破し、59年度16.6%、60年度15.3%、61年度14.4%となり、改善の兆しが見られます。

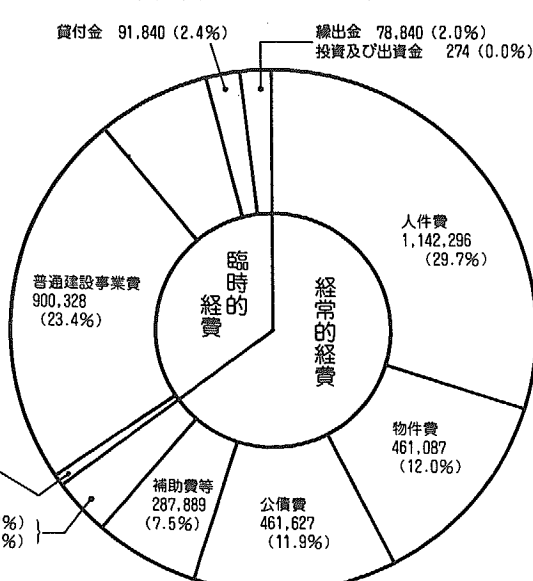
なお、61年度の公債費(町債の返済)は4億6120万円、歳出の12.0%を占め、60年度比5.616万円、13.9%の増で、主に繰り上げ償還金の増加によるものです。

黒中増築の財政は、町税が増えているものの、余裕がほとんどないのです。町がやるべき事業はたくさんありますが、実施のために合理的な財政運営が求められています。

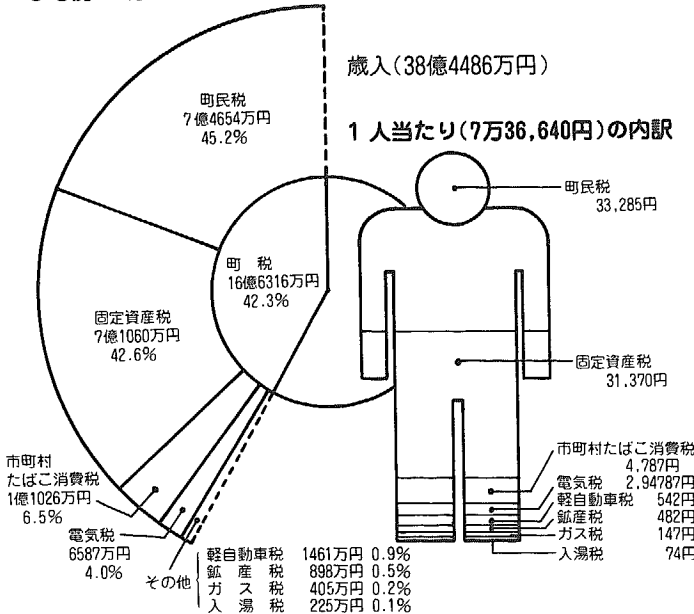
①性質別歳出構成比を新潟県町村平均と比較



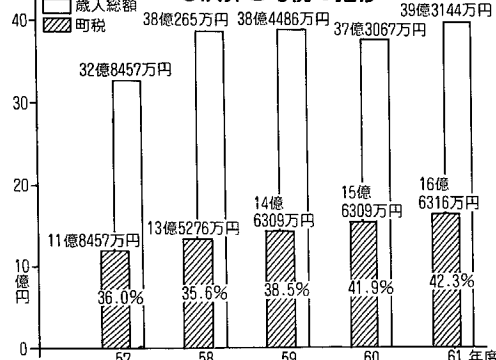
②性質別歳出の内訳 単位:千円



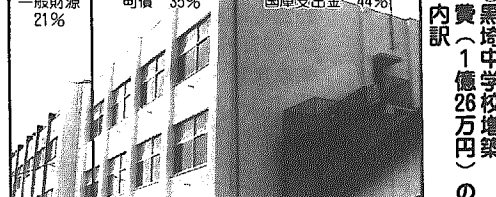
③町税(16億6316万円)の内訳



④決算と町税の推移



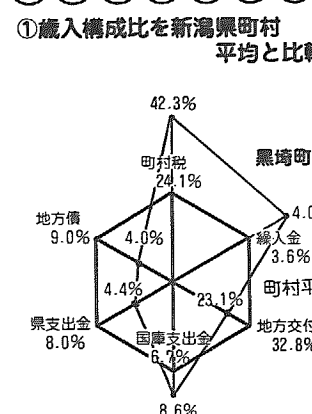
⑤黒崎中学校増築の内訳(1億26万円)の内訳



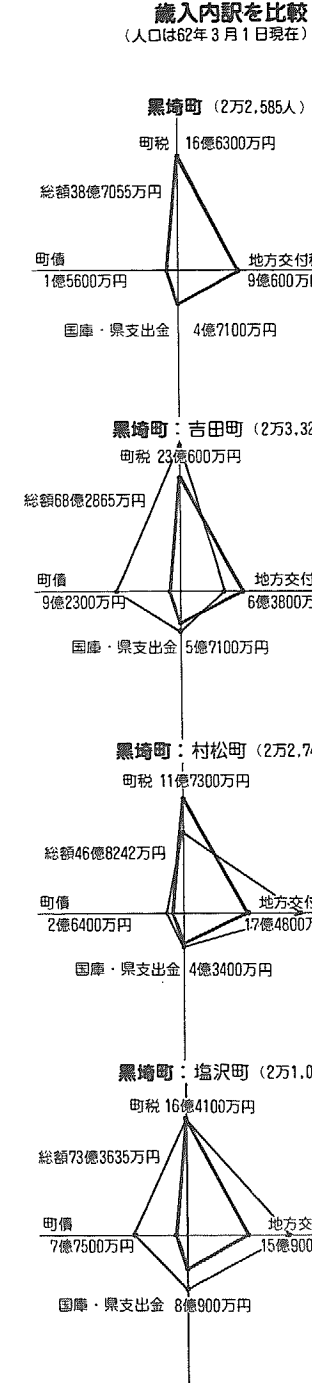
黒崎町の財政状況はどうか、他市町村との比較、町税の伸び、町債、公債費の状況、財政力を測る各種指数などみてみます。

# 町の財政はどうか、厳しい状況だが健全化へ前進

①歳入構成比を新潟県町村平均と比較



②人口が同規模の町と歳入内訳を比較(人口は62年3月1日現在)



## 他町と比べてみれば

まず、他市町村と比べてみましょう。①のとおり、県下92町村の中では自主財源である町税の割合が大きく、地方交付税、県支出金、地方債が小さいことがわかります。

ただし、新潟県の町村は全国的には貧しく、県内で黒崎町より人口が多い町は6町しかありません。

そこで、同程度の人口の町と比べての②です。歳入の割合ではなく金額で表してあります。黒崎町は、町税は村松町、塩沢町より多いのですが、歳入総額では吉田町、村松町、塩沢町を大きく下回っています。つまり、黒崎町は町税は平均以上ですが、全体的にお金がないわけです。

## 町税は歳入の4割強

黒崎町は人口増と住宅増に伴って年々、町税が増えていきます。61年度の町税は42.3%

以上ことから、黒中増築は町税などの点で比較的恵まれているといえます。

## まだ財政に余裕なし

歳出を性質別に見たのが⑥です。人件費や公債費など必要不可欠な経費を経常的経費といひ、総額24億9733万円、64.9%を占めます。残る臨時的経費の大半は建設事業費ですから、経常的経費が大きいと、建物や道路に回せるお金が少なくなります。

経常的経費は前年度より1億3004万円、5.5%増え、財政が硬直化してきた(財政に余裕がなくなってきた)といえます。

財政の弾力性を示す指数である⑧の「経常収支比率」を見てみましょう。80%が健全財政の上限で、それ以上になると県の指導を受けます。黒中増築は59年度に79.1%まで行きましたが、60年度77.5%、61年度76.6%でした。

減少傾向であるとはいえ、油断できません。

## 一人当たり14万円借金

長期借入金の町債も増えればそれだけ財政を厳しくします。61年度末で32億419万円、町民一人当たり約14万円の借金を背負っていることになり、将来にわたって元金と利子を返していかなければなりません。黒中増築の場合25年かかります。

黒中増築の財政は、町税が増えているものの、余裕がほとんどないのです。町がやるべき事業はたくさんありますが、実施のために合理的な財政運営が求められています。